

油絵を趣味にしていた金子の影響もあって古関は生涯にわたって絵を描き続けました。

古関は、作曲家として有名になった後も作曲の依頼を断ることはなかった。

特に、故郷・福島には多くの曲を残している。

あら、それは福島の風景ね？



そうなんだ、今度小学校の校歌を頼まれてね。

イメージが膨らむようにふるさとの絵を描いたんだ。

古関は作曲する際によくスケッチを描いていたよう



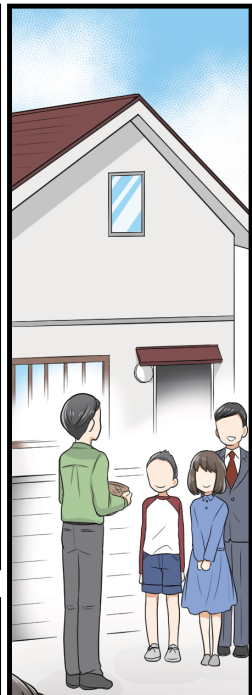
地元・福島には多くのスケッチが残されている。

今のは？
どこの子どもたち？

ほら、この前校歌を作曲した学校の生徒と先生だよ。
お礼を
いただいたね。
あの子たちが
育てた小豆らしいよ！

いいじゃないか！

喜んでくれたし、小豆もほら、こんなに！

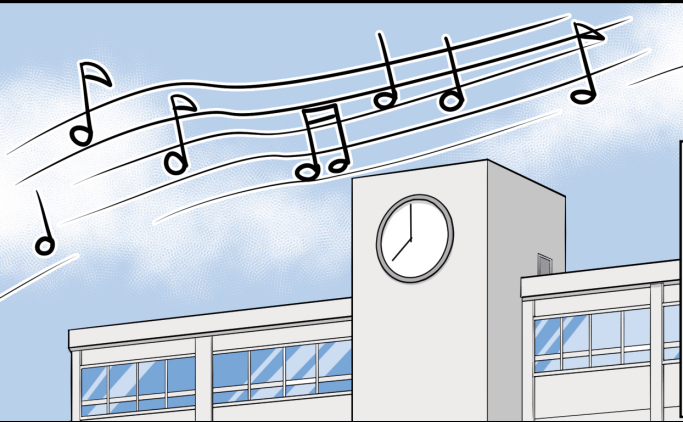


まさか…それが今回の報酬ってことはないでしょうね??



古関は日本全国の小中学校の校歌を数多く手がけている。

その数は、福島県内だけで100曲以上。



今も、多くの歌が歌い継がれている。



君たちが何かをやり遂げたいと思っていたら
なすとげたい、
なすとげたい！と
強く思うことが
大切です。

どうか、
自分の夢を
叶えてください。

戦後の日本を
音楽で勇気づけてきた
古関。

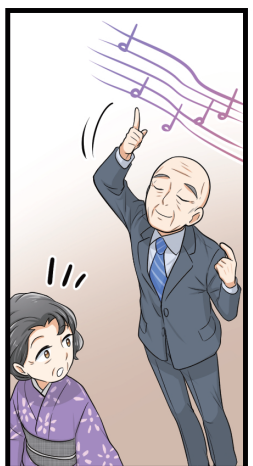


これだけの校歌や応援歌を手がけたのは、
未来を担う子どもたちへの
エールだったの
かもしれない。

あなたのふるさとは
やっぱり美しいわね。

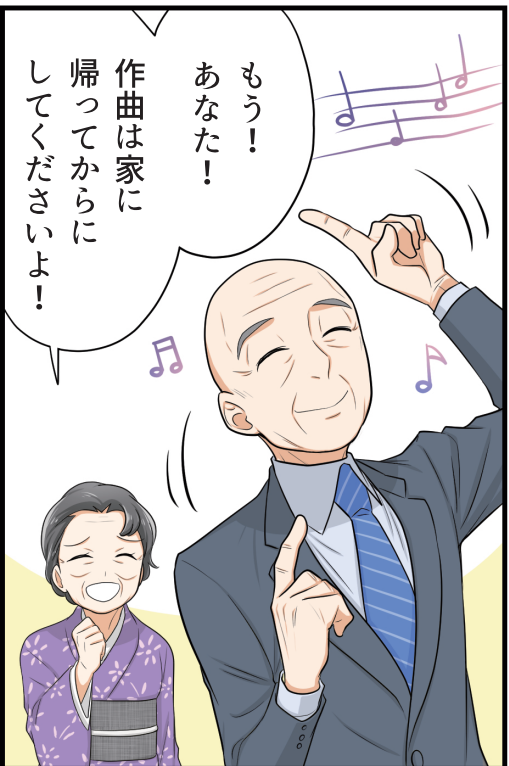
そうだな。

なんだか、こうやってふるさとの福島を歩いていると
良いメロディーが
浮かんできそうだよ。



もう！
あなた！

作曲は家に帰ってからにしてくださいよ！



家族思いで、仕事を多くかかえているときも子どもと一緒に遊んだり、ひんぱんに家族旅行にも行っていました。